



ゆうき、あんたゲームばっか
やってないでちゃんと
試験勉強しなさいよ！

まったく。
母さんに心配かけてんじやないよ。
今度ゲームやったら買取に
だすからね！

ほんと腹立つわー

まあまあアキちゃん
ゆうだってちゃんと
分かってるわよー

母さんは甘いのよ！
こいつこの前も夜中に隠れて
ゲームやってたんだから。



ゆうきもゲームはほどほどにね。
そうだ今夜はカレーにしましょ。
お母さんちよっと買い物行ってくるから
二人で仲良くしてるのよ。

.....

...いつてらっしゃい。
お母さんアイスもついでに
買ってきて。

はいはい。



ねえちゃん
さっきのあれはどういうつもり？
僕ちゃんと勉強してるの知ってるよね？

んあっ
だってゆうくん最近ずっと
勉強ばかりで
全然かまってくれないんだもん

なるほどね。
だからって母さんの前で
あんなこと言ったら余計に
心配するじゃないの？

ごめんなさいっ
そんなつもりじゃなかったの

お姉ちゃんのこと嫌いになった！？
ごめんねっもうあんな事しないから
嫌いにならないで

大丈夫だよお姉ちゃん。
嫌いになんてならないから。

大好きゆうくん

お姉

お姉

お姉

姉は僕のが大好きで
仕方ないらしい。
小さい頃から姉は僕と二人になると
甘々になる。
それがこじらせて今では
こんな関係になっている。

ほら今エッチしてるよ。
お姉ちゃんの中に僕のお○んちん
入ってるよ。うれしい？

ふえ〜ん嬉しいよお
ゆうくん大好きだよ〜

最近かまってあげられなかったから
今日は色々サービスしておこう。
2こも離れてるのに…
まったくどっちが年上なのやら。

あ〜ん

ん

あ〜ん

ん

あ〜ん

あ〜ん

あ〜ん

あ〜ん

あ〜ん

あ〜ん



はぁ
はぁ

ゆうくん、気持ちいい？
お姉ちゃんの中気持ちいい？
いつもみたいにキューっとする？

気持ちいいよ
キューっとしてして
おちんちんキューっとして

ふふふ
ゆうくんこれ好きだよ
いくよ

お
♡

ん
♡

ん
♡

お姉ちゃんのおそこはとても締めがいい
いわゆる名器というやつだろう。
最初の頃はあまりのきつさに
すぐいってしまってた。
今ではしばらく持ちこたえられるように
なったのだがそれでもやばい…。

くっ
はぁ
やばい

キ
ウ
ッ
ッ
ッ
♡

キ
ウ
ッ
♡

♡

♡

ゆうくんのお〇んぽ
大きくなってる。♡

おねえちゃんの中
気持ちいいから…んっ

もっとキュッとして

はぁ

はぁ

いいよ♡
いっぱいきゅっきゅしてあげる♡
んっ♡

はぁ

はぁ

はぁ

♡

はぁ

はぁ

はぁはぁ
ゆうくん今日は中に出してくれるよね？
ずっと我慢してたんだからいいよね？

ゆうくんのあついの
お姉ちゃんの中に
いっぱい出してほしいの

ん♡

はぁ

はぁ

最近禁欲してたから
もちろんだしたのはやまやまだが
妊娠したらどうにもならない。
ここは理性で乗り越えたいところだ

ねえ、ちゃんと聞いてる？
いつも外に出すんだから
中でいつでも大丈夫だって。

そんな簡単に
妊娠なんか
しないから。

いやいやいや...
おねえちゃんさすがに
中はまずいって。

いいよっいいよっいいよっ！
中でっんあっ
中で出して——！！

もちろんしっかりと
そとにだします！

母さんも戻ってくるし
そろそろいくよっ！





カッ

え!?

ビュッ

ビュッ

いっぱい

え!?

いっぱいでてるっ
ゆうくんの熱いのが
いっぱい

え!?

ビュッ
いっぱい
いっぱい
いっぱい

おはようゆうくん。
昨日は夜中まで勉強してたじゃない。
偉いなー。お姉ちゃん誇らしいよ。

今夜はお姉ちゃんが一緒に
勉強手伝ってやるよー。
私もやることいっぱいだけど
可愛い弟のためだもんない。
しゃーないしゃーない。

これで母さんも
一安心だねー。

あらあら急に
仲良くなって…。
母さん嬉しいわ。

中だし後
優劣が逆転してしまい、僕は勉強の後
集に4日お姉ちゃんの相手をする事になった。
別に嫌じゃないし、気持ちいいから
全然いいんだけど、試験には無事落ちた。

おしまい



.....。

あっ

が
ぢ
ゃ

あー、えーと...

わざとじゃないっでば!

……また？

私この前
注意したよね？

す、すまん……。

誰もいないと思って……。

決してわざとじゃないんだけど
俺はエロい場面によく出くわす。
家の中では姉や妹の着替え中だったり
街では満員電車の中で周り女子だらけで
ギャウギャウに胸やお尻を押し付けられたり。
オナニーのネタには困らないくらいだ。

もう！お兄ちゃん
絶対わざとでしょ！
いつも私が
裸の時に限って…

この変態！

ち、ちがうって
ほんとに
わざとじゃ…。

ここは別に関係ないって…
ってここ床すべるから
気を付けた方がいいぞ…。

嘘つけ？！
じゃあなんでチ○コ
ビンビンなのよ！？

はあ！？
何話すり替えようとしてんのよ！

きやつ

あ、ほらっ

だからあぶないって…。

バ

スルッ



うう…。
いたたたたー！

大丈夫か？

うん…。



よかった。

スッパ♡

もー♡

って
ちょー！

だから言ったじゃん。

うん。

どさくさにまぎれて
何入れてるのよー！！

わーっ

どうしたのー？ 大声出してー！

やばっ母さん
こっち来ちゃうかも

えっ？

このまま風呂場へ...

つかまってー！

うんうん。

あんたたち
大丈夫なのー？

ケンカしちゃ
だめよー。

は、はい。

なんで入れながらなのよっ
絶対わざとでしょっ！？

わ、わざとじゃないってっ

てかお母さん来ないから
早くおろしてー！



そつとだよ…。
そつとね。

ああ

さっき転んだ時
お尻打って痛いんだから
ゆっくり下ろしてね…。

分かってるって

おれも昨日筋トレしたから
腰が痛いんだよねあ…。



もー早く
ぬいてよー!!

お兄ちゃんに
中で出されたー!

ごめんてー
わざとじゃないってばっ

うそつけ!



もーいいから
おにいちやんでてってー!

お尻…。
痛いのか?

そうよー!

…痛そうだな…。

あんたが悪いん
でしようが!!

もー…。

お詫びに
背中流すよ?

いい!ー!自分でやるから
早くでてってー!!

そんないこと
言われてもなあ…。
なんだか申し訳ない…。

あっそうだ!



えっ
ちよつと
なにになに!?

いや、痛いだろうから
舐めてあげようと思って。

どうしたら
そんな発想になるのよ!



そんなとこ
舐められたら...んっ...

声出ちゃうじゃない...
んっ変な感じ。

いれたい

したくなっちゃう...

これはもうがまんできない。
ち○こをいれたい。
妹のま○こにチン○をいれたい。

締め付けがすっごい。 ㄣ
どんどん飲み込まれていくっ

あつすこ
はいつてくるっんっ

なんかゆっくりだな。

お尻いたわって
くれるのかな。

ふっきは
酷いこと
言っちゃったかな

お尻痛いって言ってたからな...。
気持よくなって少しでも痛みを
軽くできればいいんだけど...



こっちの体制の方が
お尻に優しかったりするかな？
あんまり試したことはないけど...

いまいちよく分からないし
慣れてないから良さが
分からない...やっぱあれだな。



ちよつとまた体勢
変えるぞ...。
お尻大丈夫か？

う、うん。

これ気持よかったのに...

やっぱりこれだよな。
気持ちいいいいいい！
明日も妹がお風呂入る
タイミングス...



この後二人で
お風呂に入って
またした。





あっ

が
ん
な

.....。

あー、えーと....。

うか?



おしまい♡

ほら、お兄ちゃん早く

えー!?

今じゃー?!

いいじゃんいいじゃん

俺と妹はつい最近エッチをする
仲になった。
なんとというかお互い発情する
タイミングがバッチリと
合ってしまったらしい…。

兄妹でもいいじゃない

さすがに今は
やばくないか?

大丈夫だって
みんなテレビに夢中だし
ほらはやくー

毎日3、4回はやってるかも
しれない。今日もすでに朝
出かける前に2回した。
とにかく今は二人とも
やることしか頭にない。



もちろんすぐに入れたい。



しかしだからってわざわざ両親と
親戚がいるところじゃないまでも…。
一瞬俺の中の少ない理性が働いた

が、性欲には勝てず
ちっぽけな理性はすぐに敗れた。
俺は両親達の気配を気にしつつ
ギンギンになったチ○コを
妹のアソコに入れた。

あんっお兄ちゃん
やっぱだめ声でる。

もう無理

ああ…たまらん







もう、お兄ちゃんたら
タイミング考えてよねっ

いやあすまん
がまんできなくてつい...

そのまま部屋に戻ってすれば
いいものを俺と妹はわざわざ
元の台所でエッチを再開した。

あ

10
チュッ

ズッ

10
チュッ

ズッ

ん

あ

は

は

でもなんか
いつもより
ドキドキしたね。

アッ

あ

アッ

ほんとだよな。
いつもより
締めりが良かったし。

アッ

バカっ

♡

10
チュッ

は
10
チュッ

てか俺もう
イキそうっ

ズッ

10
チュッ

は

えっもう!?!
早くない!?!

10
チュッ

ズッ

あ

だからいつもより
きつきつなんだってば

ズッ

アッ

は
人
ハ
ハ

ハ
ハ

あ

110%

それから俺たちのエッチは
さらに大胆になっていった。
家の駐車場や庭でもした。
見られるかもしれないドキドキ感が
快感へと変わっていった…。

あ

110%

あ

最近のお気に入りはこの。
道行く人を見下ろしながら
後ろからつくのが
何とも言えない興奮を覚えた。

おにちゃん…んっ
ダメだって…。



人通り多くなってきたから
恥ずかしいよお…。

そんなこと言って
すごい締めまりだぞっ

110%

110%





はあはあ...んっ...
お兄ちゃん...もっとしよ

たまらん！妹となら
何回でもできる
今日は一日中やりまくるぞー！

近所さまに
聞こえるくらい
突きまくるぞっ！

♡♡♡
おおおおー！
いいねーいいねー！

エロいよー

スズキさんちの兄妹
マジ最高なんだけどっ！

お前また向かいの家の兄妹のエッ
覗いてんのかー？
止めとけて。趣味悪いぞー。

はあ？いいじゃん別に。
お兄ちゃんだってサトウさん家の
お姉ちゃんいつも見てるくせに。

ばっばか！

俺はそんなことしてねえって！

はいはい。

まさか覗かれてたとは
知る由もなかったが
そんなことどうでも
いいくらいに俺たちは
おかしくなっていた
のかもしれない。

明日も休みだし
このまま夜まで
やって、明日も
朝からやるぞー

おしまい

ある日、何年も思い描いていたことを
実行すべく、俺は妹に土下座して
チ○コを入れさせてくれと頼んでみた。
我慢できなかった。
もう二日五日のオナニーでは俺の性欲は
抑えきれなくなっていた。

え!?

頼む!!

しかし俺はやらなかったことを
後悔するのが嫌だった。
妹としたい…。
これだけは死ぬ前に後悔したくなかった。

ある種かけだった。
これを親にチクられたら明日から
どんな顔してこの家で生きていけば
いいのか分からない。

えっ…えっ…

お兄ちゃん…?

妹に土下座して
頼んでみた

ついに言ってしまった…。
実の妹に対して俺は何を
言ってるんだ…。
あー最悪だ。この性欲のせいで
親にチクられて家を追い出されて
みじめな人生を送るんだ…。

土下座から顔を上げて妹の顔を
見てみると、何とも言えない表情を
していた。

そりやそうだ。
実の兄にチ○コをなんて考えただけで
おぞましい。
いつも俺のことを慕ってくれた妹に
なんてことを言ってしまったんだ。

激しく後悔した。
戻れるなら5分前に戻してくれ！
いてもたってもいられなくなった俺は
その場を立ち去ろうとした。



.....

す

す

すまたなら...おっ

ほんとにすまなかった！
頭がどうかしてたんだ！
だから父さんと母さんにはだまっ...

もい

って、はっ！？
今なんて！？
何て言ったの！？

もい

俺の耳がおかしくなったのか！？
たしか今スマタって言わなかったか？
刺股の聞き違いか？
刺股で刺さうってか？
さすがに刺されるのは勘弁して欲しい...

だから…スマタならいいよって…。

いんすか!?

まじでっー!?

もうっ！

そんなに
くどいならだめーっ！
はいだめー！！！！



もうっ！

そんなに
くだいならだめーっ！
はいだめー！！！！

**ちゅーい
いやいやいやいやっ！**

**ちゅーい
いやいやいやいやっ！**

ごめんなさい×10



いったい何がどうなった！？
とんでもないミラクルが
起ったことだけ理解した。

もい

しかもスマタならって…。
妹の□からスマタってワードが出てくることに
びびった。
普段分からなかったが、一応こういうのには
興味があるんだな…。

入れるのはだめだけど
スマタならオッケーなのか。
少し残念と思ったのは贅沢すぎる。
さっきの地獄のような状態から
まさかこういう展開になろうなんて
まったく予想してなかった。

もい

とにかく妹の決心が揺らぐ前に
俺は早速スポンを下ろして
後ろから妹の腰に手をまわし
ガチガチに硬くなったチ○コを
密着させた。

じゃ、じゃあ...

いぐぞ...

うわっ

うわっ

うわっ

うわっ

ド

ド

ド

ド

あ、ぱ、パンツを下げてもらって
いいかな...

.....

こいつってこんなに細かったのか
スポーツやってるから引き締まってるものも
あるんだろっけど。
あとシャンプーのいい香りが余計に
興奮させる。



じゃじゃあ...

間違っただけで入ろうかと一瞬思ったけど、それは妹への裏切りになるからギリギリやめた。これ以上望んだらさすがに罰が当たる。

俺は妹の三角地帯にチ○コを入れた。

はづっ！

おちつけおちつけ！
やばいきもちいいいっ！

はっ…くっっっ
はっ…!!

あまりにも気持ち良すぎて
一突きで昇天するところだった！

はあはあ…。
呼吸を整えろっ…。

大丈夫。
大丈夫だ…。
毎日キツキツオナホで鍛えた
俺がたった一撃でやられるわけはないっ

はあはあ…。
太腿とオ○ン○の圧迫で
何もしくなくても
イってしまいそうだった

刺激しないように
ゆっくり深呼吸しながら
抜いていくっ…

んん
アアア

あ
あ
あ

んん
んん

んん





すすまん。
我慢できんかった…。

う、ううん。大丈夫…。

お兄ちゃんのお〇んちん
まだピクピクいつてる。
アソコにあたって…んっ



はぁ

ピク、

はぁ



キーン♡

キーン♡

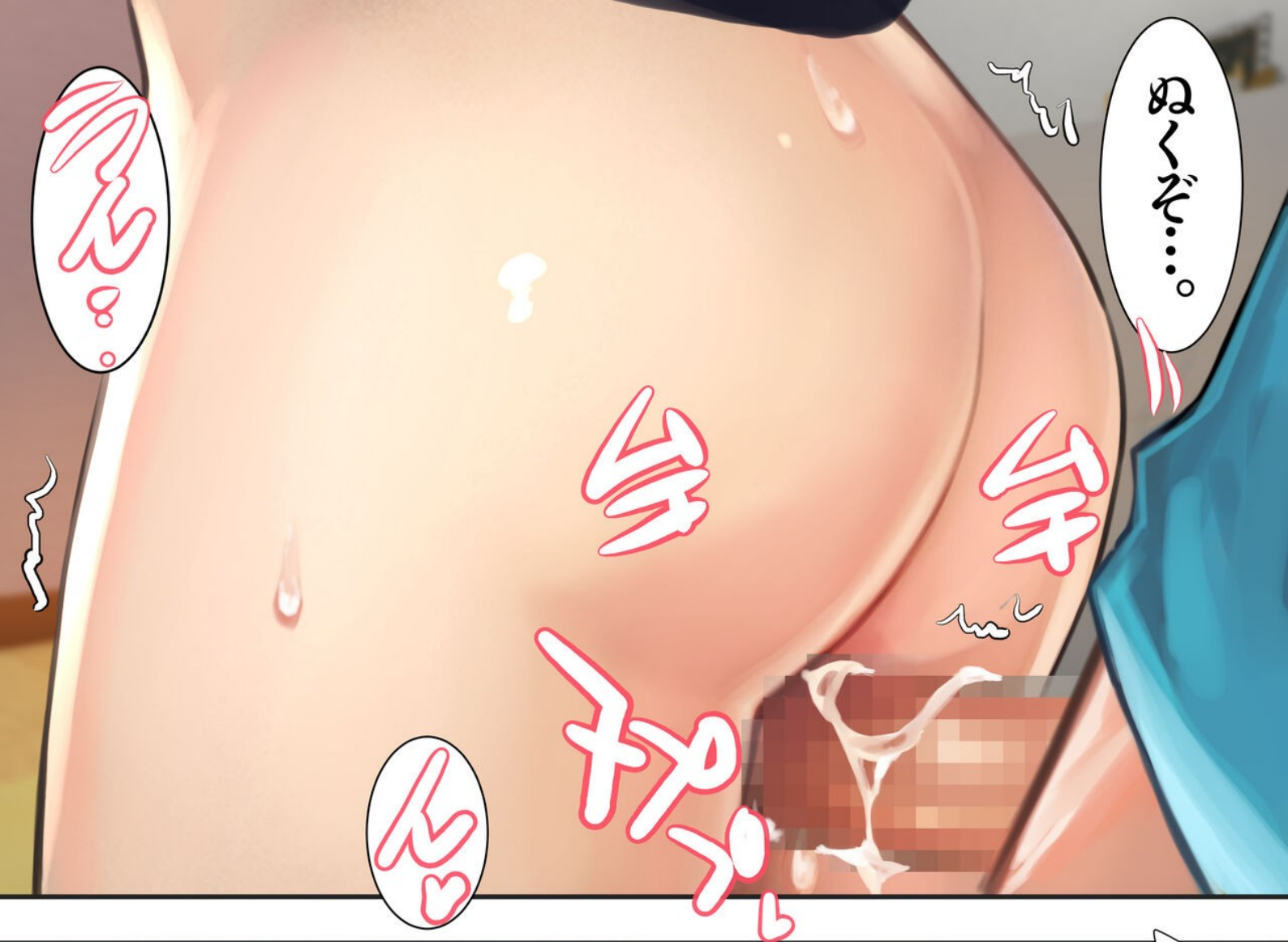
ト
○
フ

んっ

んっ

ト
○
フ





まさかの「突きでいってしまった俺は色んな意味で
申し訳なく、恥ずかしい気持ちでいっぱいだった…。

あ、ありがとう…。
なんていうか…すごく

気持ちよかった…

う、うん…。

しかし妹の言葉にまた耳を疑った…!!

べ、別にスマタくらいなら
いつでもやってあげるわよ…。

もい

もい

もい

ふあー!!

いいいんすかー!?

マジすかつ!?

やっぱだめー!!

はいだめー!!

いめんざつ×10

ミラクルに次ぐミラクルが起きて
俺は人生の何かを学んだ気がした。
その後、妹が出かけた後
俺は気を静めるためにオナーしまくった。
そう…。
明日から始まるハッピーライフに備えて♡

おしまい♡

俺は見ただ目はいいい方だが
学校の成績が悪く情けないことに
1つ下の妹に勉強を教えてもらってる。

はー！

にいちちゃんこんな簡単な
問題も解けないの？
やばくない？
これ中学で習ったやつだよ？

もー

むち♡

むち♡

妹と楽しい 勉強♡

兄の成績を上げたいスマホの新機種を
買ってもらったと親に約束したそうだが。
俺なんて激安のスマホ持たされてるのに
なんで妹だけ...。
しかしまあ可愛い妹と過ごす時間は
嫌いじゃない。

まじでがんばってよー。
私のスマホ調子悪くて
早く買い換えたいんだから。

そんなわけないって
こんなむずいのが中学生が
解けるかつーの。

ふーん

もー

分かってるけどさあ
全然テンション
上がんねえってー。



はーだめだー。
全然集中できないー。

頑張ったって
俺は何ももらえないんだし
やっても意味ないじゃん。

これじゃ不公平だよな。

もー頑張ってよー。

こんなのが
目の前にチラついてたら
勉強なんか無理だよなあ……。

私のためだと思って。

お前のおっぱい
見せてくれたら
頑張れるかも……。

はあ!?!
何言ってるのよ

いやまじで。

そしたらお前も
新しいスマホゲット
できるじゃん

頭おかしいんじゃないの!

頼む！そしたら
頑張れる気がするんだ！

ああもう！
わかったわよ！
仕方ないなあ…。

言って見るもんだな
うひひひ。

ぽん

ぽん

もー！

ぽん

かみそり！！

解る！解るぞ！
スラスラ解けるぜー！

おお！

てか、間違ってたら
意味ないからね！

当たってたなら
もう片方もな！

はいはい…

どーせ無理に
決まってるじゃない。



しゃーっ

全問正解！

なんでよ！

ほら〜早く早く〜

俺に足りなかったのはこれだったのかもしれない。俺には妹のエロパワーが必要だったのだ！

エロおっぱい
最悪回

もー最悪…。
超恥ずかしいんだけど

ふんふん
ふんふん
ふんふん

だがその力は妹のおっぱいを
みてる時だけだった...

なんでよ！

すまん...

学校の成績は変わらず
下の中くらいだった。
あの状態を持続できるエロが
必要なかもしれない。

さーもつと勉強量
増やすわよー！

俺に考えがある。

何よ？

はあ！？

俺とセッ○ス
してくれ！

おっぱいだけじゃ刺激が
足りなかったんだよ。
だから脳に刺激をだな。

○ね！！

いやまじでまじで。

お前も新型スマホ
ゲットしたいんだろ？
少しは俺にも協力しろよ

ちゅぽ

俺にはおまえの
力が必要なんだよ

くっ...

たい
たじ

スタ
スタ

ちよっ

さすがにそれは
だめだってっ

オ

おかーさん！

ちよっ

ビクッ

ビクッ

ちよっ

ちよっ

♡

ちよっ

ちよっ

これは成績を上げて
大事な妹に新型スマホを
手に入れてもらうためなんだ…。

ただ単に妹とエッチがしたいだけだなんて
けっしてそんな不埒なこととは
思っていない…。わけでもない。
いやむしろずっと前から妹に俺のチン〇を
入れたかった！そしてそれが今現実にな
ろうとしているっ！

何だこの幼稚な問題は！
こんな簡単なものも
解けなかったというのか！？

ありえない…

あんたの脳は
どうなってんのよ！

今なら人生のあらゆる問題でも
解決できそうなくらいだ。
目の前の問題なんか
どうでもよくなってくる。

お兄ちゃんのが
あそこに出たり
入ったりしてる…。

すごくえっち





そして見事成績は
軽く上位に食い込んだ。
全部妹のおかげだ。



もちろん妹は
新機種スマホを無事
ゲットした。
アプリ3万円分の
カードはお礼で
つけておいた。

おしまい

俺は週4日姉と妹にえっちの練習を
させられてる。
2人にはまだ付き合ってる人はいないのだが
いつかできた時のためにと...
俺は何年か前から相手をさせられてる
という具合だ。

ゆうちゃんはやくー
今日のお姉ちゃんの締め具合
どんなかチェックして

ちなみに悲しいかな俺にも
彼女はいない...

お兄ちゃん私も私も

も頼むから二人とも
早く彼氏作ってくれよー。

って聞いてないし

早く早くー

とはいってももの
週4日かわいい方の
部類ともいえる
姉と妹とエッチできるのは
恵まれてるのかもしれない。

や

ちゅ

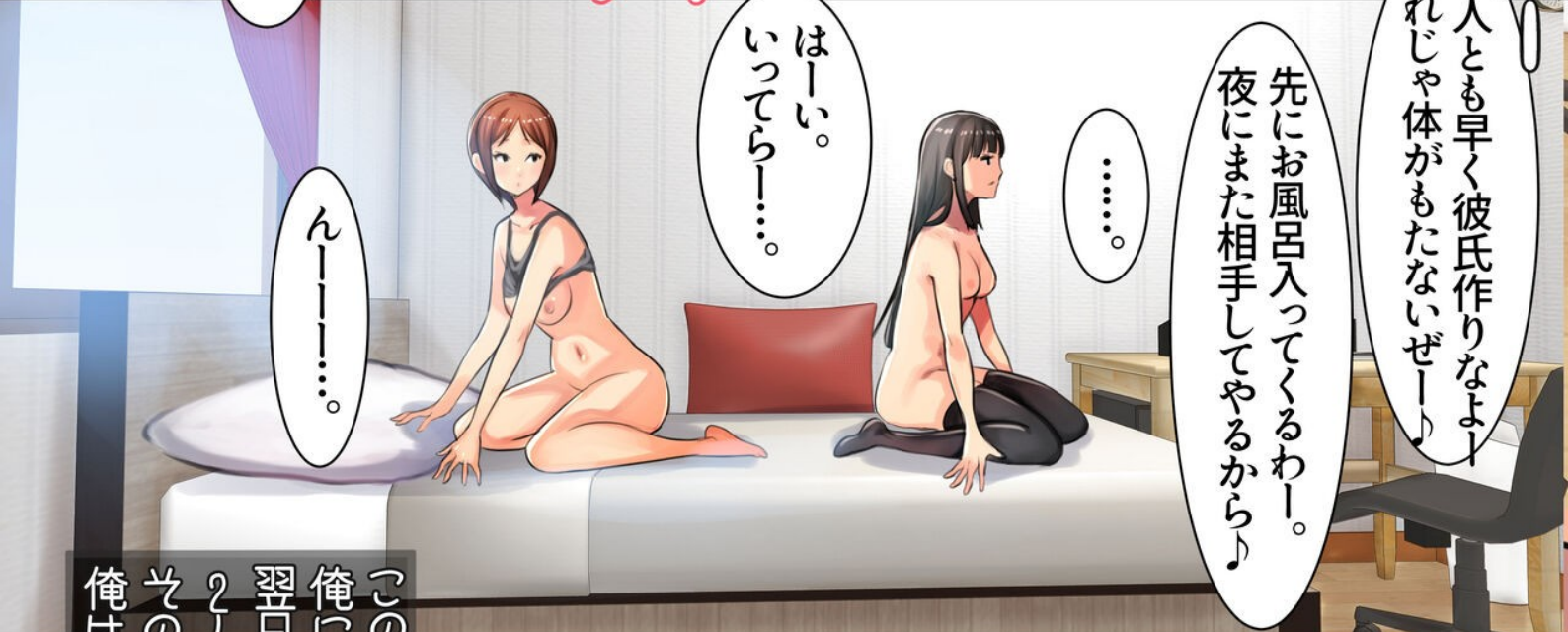
あ



叔

気持ちいいっ





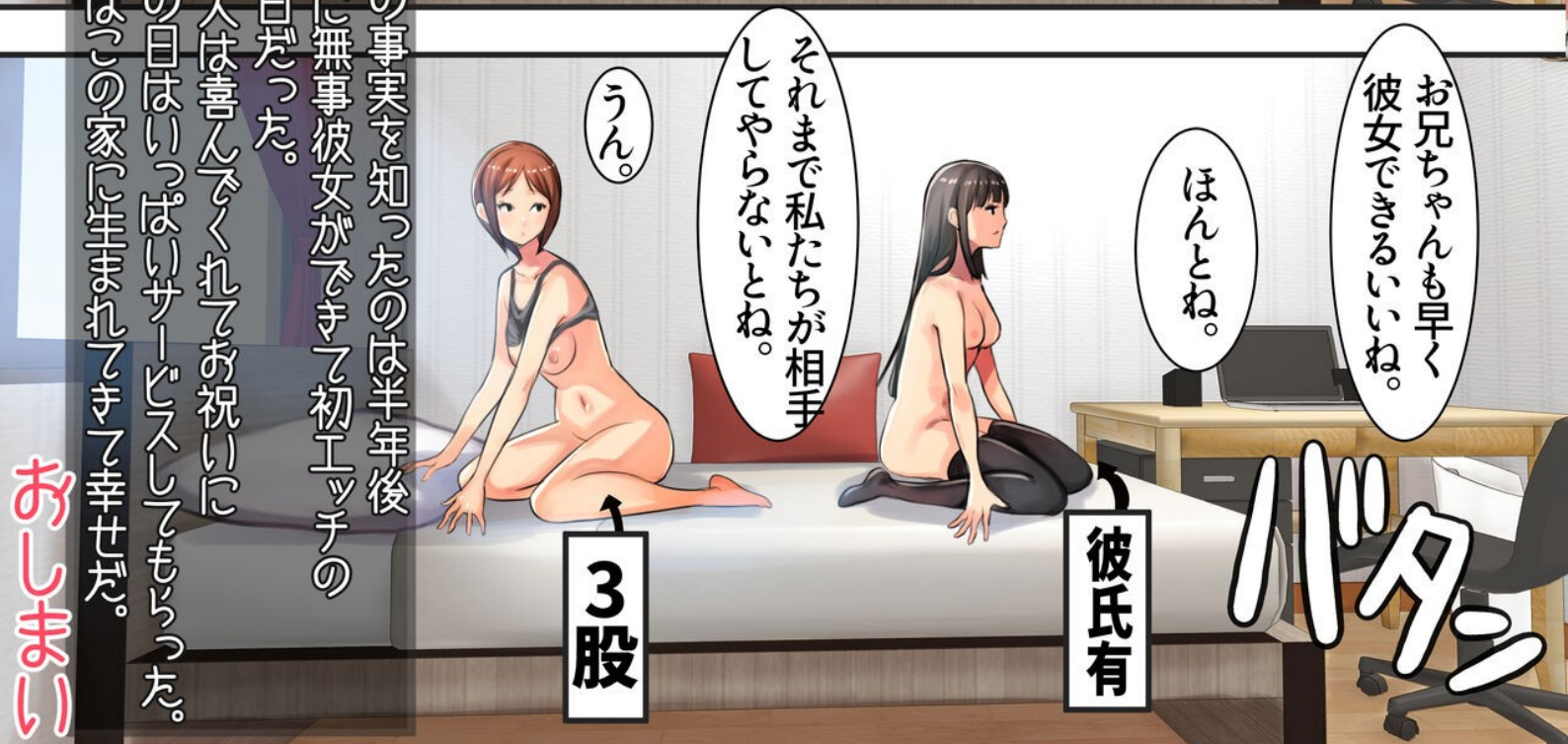
ふー
2人とも早く彼氏作りなよー
これじゃ体がもたないぜー

先にお風呂入ってくるわー。
夜にまた相手してやるから

……

はい。
いつてらー！

んー……



お兄ちゃんも早く
彼女できるいいね。

ほんとね。

それまで私たちが相手
してやらないとね。

うん。

3股

彼氏有

この事実を知ったのは半年後
俺に無事彼女ができて初エッチの
翌日だった。
2人は喜んでくれてお祝いに
その日はいっぱいサーブしてもらった。
俺はこの家に生まれてきて幸せだ。

おしまい

がちゃ

ただいまー。

お帰りーお兄ちゃん

いいじゃん別にー
こっち落ち着くんだもん。

隣の妹

お婆さんはもう仕事行ったから
私が留守番して
あげてるんでしょ

いや、自分の家を守れよ。

ってなんでお前がいるんだよ。
おまえん家隣だろ。

こいつは同じマンションの隣に住むユイカ
3つ下で子供の頃から付き合いがあつて
妹みたいな存在だ。
うちもこいつん家も母子家庭で夜は留守に
することが多い。

あー言えばこいつの
モテないよー。

だからバイトから帰るとたまに
こつやって当たり前のようにつ
くつろいでたりするのだ。

とりあえず風呂
行ってくるわ！

ほーい。

一緒に入るか？

キモッ！

ちっ。今日は母が夜勤だから
たっぷりとゲームやエロ動画
見るつもりだったのにー！
なんなんだよもう！

俺はバイトでストレスが
溜まってるんだよ！
何かいい方法は…。

はー風呂上がりの牛乳はやっぱり
最高だよなー。お前も飲めば？

私カルピスのんでるし。
ていうかその年でなに
おじさんみたいなこと
言ってる。。。

の！！

ッ

ビッ

なんだ急にどうした？

え？

あ

え？

ッ

ッ

ポッ
ポッ
ポッ

ちよっお兄ちゃん！？

は！！

?

どうした?
気分でも悪いのか?

牛乳飲むか?

くるっ

なんかぐらぐらが
くるーっ

びん
びん
びん

る

ス
ア

ガ
タ

ガ
タ

ガ
タ

な
な

お
い

な
な

と
と

どれどれ?

ちよつと熱っぽいん
じゃないか?

びん

な
な

俺がこのまま
添い寝してやるから
ソファで寝るといい。

お兄ちゃんの…
こんなにおっきいなんて。
ビンビン…。

ビクッ

ビクッ

おまつ

わっ

あっ

ビクッ

くう

あつごめんっ

す、すまん牛乳
こぼしてしまった。

な、なんだこの展開！
ドン引きして出ていくと思っていたのに
まさか食いついてくるか！？
何考えてんだっていう…。くっ



くっ

あっ

おう

3日くらいたまってたから
すげーしょつ。

す、すまんっ
大丈夫か!?

う、うん平気…。

ていうかこんなにたくさん
でるもんなの?

なんだ…急に…
女に見えてきた…
こんなにスタイル
よかったのか。

もーイクなら言ってよ

あいや…これは最近
たまってたから…。



そこからもう理性がとんで
ユイカのことを押し倒していた。
ずっとたまっていたのが1回くらい
出したくらいで
収まるわけではない。

さっきまでただの妹みたいな
存在だったのに、俺はもう
ユイカのことを完全に
女として見ていた。

ガ

キ

バ

ズ

ち

あめ♡

ちよっ
聞いてるー？

はあはあ…。
すげえいい匂い…。

ズ

ズ

はいはいはいはい
おしまいおしまいっ！

スーハ

スーハ

スー

だめえ

スー

スーハ

多分10分以上嗅いでたと思う。
ずっとこのままであいたいくらい
興奮する匂いだった。

やだあ

ビチャ

いやすまん無理っ。
お前の体エロすぎて俺もう…

ちょーっ
お兄ちゃん

そこダメっ
汚いってバカっ



ああああ最高…。舌とお○んこの
感触味わいつつ、ユイカのリアルな
喘ぎ声が聞こえるのがたまらない。

っ…っ…っ…。
こんなエロい顔するのが。

だめえ

やだっ

この表情がさらに愛しさと
興奮度をアップさせた。

お気に入りエロ動画の
100倍くらい興奮する。
これを動画で見直したいくらいだ。

ポクン

フッ♡

フッ♡

ちゅっ♡
ビクッ♡

!!

おにいちゃん!

さすがにそれは
ダメだつて?!

ストップ

ストップ

ん♡

フッ♡

フッ♡

あ♡



くはっ、先っぽだけでも
気持ちいい...

やめーっ！

お兄ちゃん、私たち
兄妹なのよ！ダメだって



.....

いや、違うだろ。

た

.....

そうだった...



でもやっぱりダメー!

もうー

にがさんぞー

あっ

んー

ぐい

あ

びび

びび

びび

びび

ふわ



やばっあつたけえ

やばっ

やばっ

ドン



うそっお兄ちゃんのが入ってる...

なんか...すごい...

気持ちいいかも...



すごめちやくちや気持ちいいんだけど。

こいつとこんなに体の相性がいいなんて...
なんでもっと早くやらなかったんだ...

気づけば帰ってきてから
1時間近く経っていた。
ありきたりだが時間が
止まってほしいと思った！

お兄ちゃん
私もう…イキそうっ

俺もっ

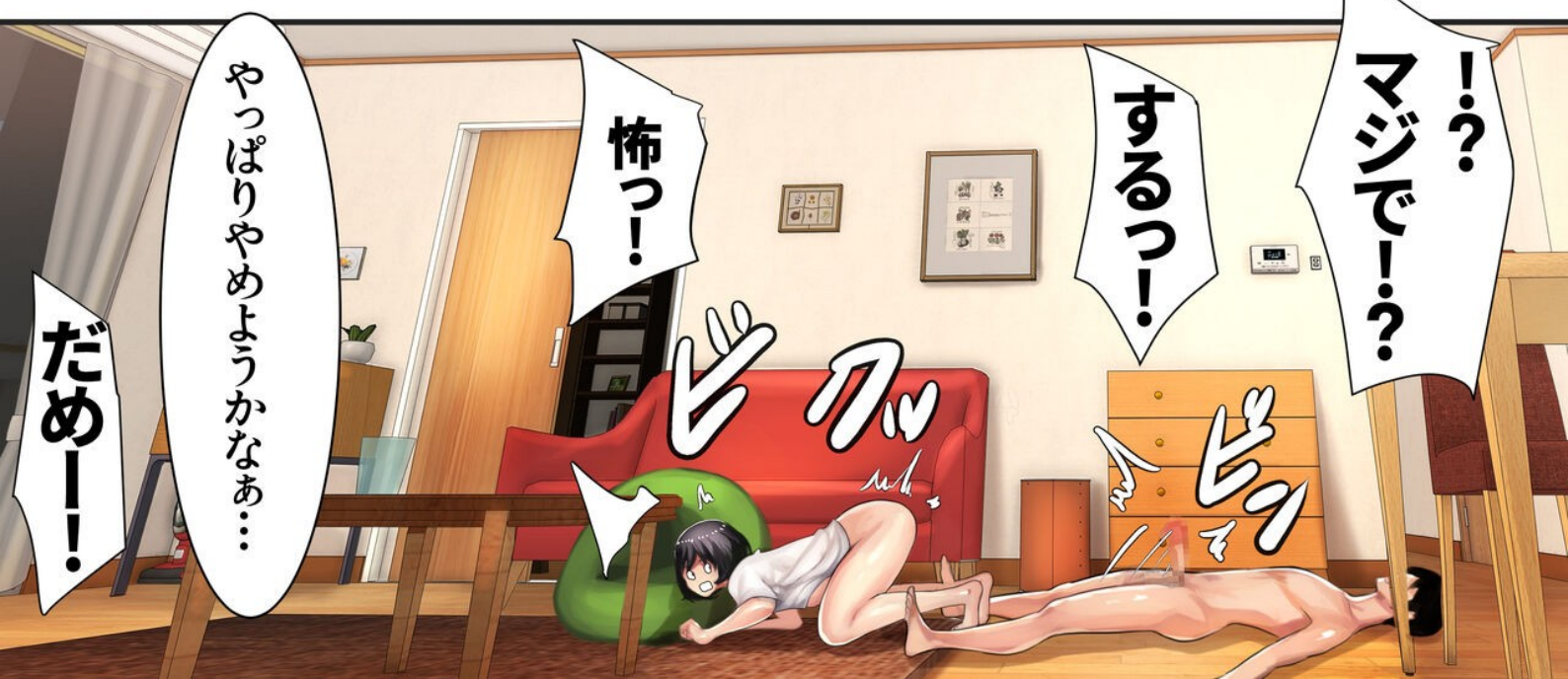
この時俺はもうユイカのことを
好きになっていた。
ついさっきまで邪魔に思ってたのに
ほんと何が起きるか分からない。

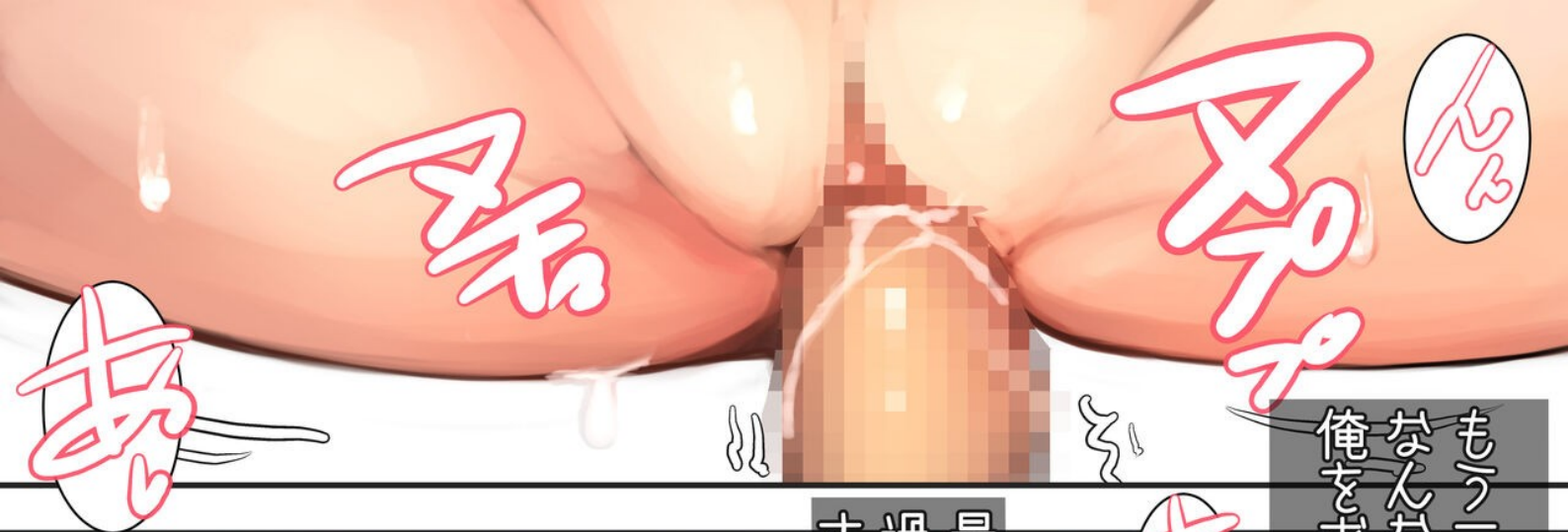




…最高に気持ちよかった…
中へ出せなかったのが残念だが
生でできたし、目の前のお尻が
エロすぎてほぼ満足だ。

俺はもう完全に好きになってしまっていた。
小さな後姿が余計に愛おしくさせた。





もう二回と言わず何度もした。
なんならユイカの方が積極的に
俺を求めてくるまゝになっていた。

最高に幸せな時間を
過ごしていて時間が経つのを
すっかり忘れていた。



俺も。お前のおっぱいも
表情も見れるの好き

んっこの体位好きかも

ただいまー。

おかえりーおばさん。

ユイカちゃんお母さん
帰ってきてるみたいよ。
心配するから顔見せておいで。

はい

あらう？タカシは？

あ、母さん
おかえり。

いるじゃない。

アイス買ってきたから
二人で食べなさい。

わーい

ほーい

母さん汗かいたから
お風呂するわー！

はーゆっくり湯船にでも
浸かってみようかしら。

……



お兄ちゃん、ちよっ

大丈夫、聞こえんって

おばさんいるじゃん

おは

おは



だつて...んっ
気持ちいいんだもん

バカッ
声大きいって



お前のことが...

俺

いいとこしか
ねえじゃねえか!

チクショー。こいつのアンコ
綺麗だし締まりいいし



何ジロジロみてんのよ

恥ずかしいから
早く座ってよ…。

ほら早くお兄ちゃん。
一緒にアニメ見よ。

110ニ
110ニ

もう一話一緒に見ようよー

え？

Tシャツ脱いたら
考えるって？

もー。

お兄ちゃんのエッチ。

しょうがないなーもー。



ほら。

これでいいでしょう？

座って。

はやくー。

ほら早く早くー。
次始まっちゃうからー。
一人で見てもつままないじゃん



はー面白かったねー。

また一緒に見ようね。
お兄ちゃん。

え？

今度は裸になってくれたら
見てあげるって？

はいはい。恥ずかしいから
夜ならいいよ。
次見るアニメ決めとくねー！

はー今回も面白かったねー。

ね。
次は何見よっか？

え？

エッチしてくれたら
みてやってもいいって？

調子にのんな！

おしまい



はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

んっ♡

おめけ♡

お兄ちゃんまたアニメ見ながら
エッチしようね

